

「エマオへの道で」

2016年01月26日

ルカによる福音書 24章 13節～27節。ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけのご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つげずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

クレオパともう一人の弟子がエルサレムから 11 kmほど離れたエマオに向かって歩きながら、都で見聞きした出来事について論じ合っていた。彼らは、主イエスの十字架の死で弟子としての使命が終わった、また、主イエスが復活したという婦人たちの証言を信じることができず、傷心の思いで故郷に帰る途中であった。そこへ、復活した主イエスが現われ、一緒に歩き始めた。二人の目は遮られ、同行する人が復活した主イエスであると認めることができなかつた。主イエスと二人の弟子たちの間で下記のような会話がなされた。

主イエスが「やり取りしているその話は何のことですか」と問うと、クレオパが「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけのご存じなかったのですか」と訝った。主イエスは「どんなことですか」と聞き質すと、二人は答えた。ナザレのイエスは、行いと言葉に力のある預言者でしたが、エルサレム神殿の祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまった。私たちは、イエスこそイスラエルを解放してくださると望みをかけていたが、イエスが十字架で殺され、三日目になる。ところが、婦人たちが朝早く墓へ行くと、遺体はなく、天使たちから「イエスは生きておられる」と告げられた。仲間の者たちが墓へ行ってみると、婦人たちが言った通り、イエスの遺体はなかつたと話した。主イエスは、彼らの不信仰を嘆き、「メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか」と言われた。そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明された。旧約聖書で預言されたメシア（キリスト）はナザレのイエスの死と復活に現されていると説かれたに違いない。